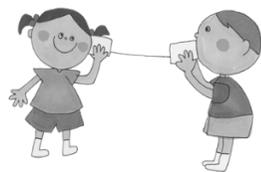


いと
糸でんわ

平和について考えてみよう

今回の平和学習では、『火垂るの墓』と『大阪に落とされた模擬原爆』について学習しました。知らなかった『模擬原爆』や改めてみた『火垂るの墓』で、戦争の悲惨さは痛いほど心に残りました。

さらに、平和学習を深めるために、友だちの感想を読む前に、一度、平和とは何か考えてみましょう。

【平和】とは、「1. 戦争や紛争がなく、世の中がおだやかな状態にあること。2. 心配やもめごとがなく、おだやかなこと。」と辞書には書いています。

今は、戦争もなく紛争もないため、平和な状態といえますか。『火垂るの墓』のような過去の日本は戦争状態で、私たちが生きる今は平和な状態と認めていませんか。もう一度、平和とは何か考えてみましょう。だれもが、心配やもめごとがなく、穏やかなことが平和



なら、決して私たちが生きる今の世の中も戦争状態ではないが、平和だ！と言い切ることもできないでしょう。

自分自身や自分のまわりを見渡し、心配やもめごとはありませんか。穏やかな日々を過ごせていますか。

生徒の感想

1組 増井恒希さん

当時、人々は「思いやり」という心がなかったのだと思った。戦争は、人々の命だけを奪う悲惨なものだと思う。「絶対に戦争はしてはいけない」という人々の言葉をぼくは次の世代にもつないでいき、絶対に戦争の起きない世の中にしたい。

2組 富山葵衣さん

火垂るの墓を見て、お母さんが死んでしまうシーンのような光景が戦争の時、たくさんの人が経験したと思うと、とても悲しくなりました。節子のように死んでいく人もすごくたくさんいたと思います。今後、大切な人が戦争で亡くなって欲しくないのに、まだ戦争している国もあるけど、戦争が早く終わり、もう戦争が起らない平和な世界になって行って欲しいです。

3組 宇田朱里さん

空襲も恐怖だけど、食料や自分の生活に関する恐怖が強かったと思う。節子のように栄養失調になり寝たきり状態になったら、「いつ死ぬのだろうか」と考えるのではないかと感じた。ラジオなどの情報機械がないような家だと戦争が終わったことも知らず、いつまでこの生活が続くのかわからなかったり、これから自分はどうなるのか分からないという見えない恐怖があると思う。辛いこと、怖いこと、不安なことと戦っていた、この時代に生きた人は本当に偉大だと思う。清太と節子のような幼い中で亡くなっていた人は本当に多いと思う。幼い人や人々の未来を奪った戦争は、もう二度とあってはいけない。辛い思いをしたのは日本だけではないから、他の国のことも大切な歴史として語り続けるべき出来事だと思う。

4組 池田希美さん

戦争は、大切な命を奪うのだと知った。その命の対象は、老人から小さな子どもの命まで奪ったことが分かった。たとえ生き残っていても、栄養失調で亡くなったり、後遺症が残ることもあるとわかった。今では、戦争を体験した人がどんどん少なくなっているけど、この映画を見たら、戦争がどんなに悲惨だったのか分かり、もう二度と戦争をしてはいけないということが分かると思った。

5組 小泉真心さん

火垂るの墓を見て思ったことは、まず戦争で空襲とかで家族が死んでしまったりして、悲しかったり、食料がなくて苦しんだりするけど、戦争が終わっても、ずっと苦しみを続けなければならぬと思いました。私は、米や野菜もたくさんあって、あれは嫌い、あれは好きとか、ごはんも平気で残していたりしています。それで食べなさいと言われてたら、すねたりしています。そして、不幸だとか言っているけど、そんなことは幸せなことだと思いました。

私は、これまでたくさんの戦争のビデオを見て来たけど、どれも空襲で原爆が落ちて、大変だったと言うことでした。だから、私は原爆が落ちてきたら怖いと思っていました。なのに、爆弾が落ちて、落ち終わっても苦しみを続けなければならぬ戦争は、絶対にやってはいけないものだと思えました。そして、戦争はたくさんの人が死ぬ恐ろしいものだと思えました。

6組 高井晴さん

火垂るの墓を見たことは何回かありました。でも、こんなに考えて見たことは初めてでした。本当にあったことだと知り、すごく驚きました。戦争をして何がしたいのか全然わからない。話をして決めればいいのに、しかも、実験みたいな感じで原爆を落として何人も死んでいったことがひどいと思った。

7組 田中颯介さん

戦争では、戦いに行くと死ぬ人や空襲にあつて死ぬ人だけではなく、家族をなくし、食べる物が無くなって餓死してしまう人もいるということがわかりました。火垂るの墓をみて、最後、自分の妹である節子を自分で火葬するシーンがとても悲しかったです。戦争をして何の意味があるのだろう。人を殺して何の意味があるのだろうと思った。